

第4章 基本目標と10年後の在りたい姿（状態）

1 基本目標

本計画の基本目標を「多様な産業が連携・振興できる にぎわいと活力ある 働きたい・住み続けたいと思えるまち」とします。

多様な産業が連携・振興できる

にぎわいと活力ある

働きたい・住み続けたいと思えるまち

はじめに、「多様な産業が連携・振興できる」は、令和の時代に入り、社会環境や人々のライフスタイルなどが変化しているなかで、そのニーズや価値観も幅広く多様化しています。これに合わせて、事業者の取組も多岐にわたっており、これまで以上に多様な産業の連携が図られ、また、その連携によって振興していくことが期待されています。

次いで、「にぎわいと活力ある」は、全国的に少子高齢化が進んでいる人口減少社会においても、まちのなかに、にぎわいと活力のある状態を目指すものです。

そして、「働きたい・住み続けたいと思えるまち」は、にぎわいと活力あるなかで、市内外の多くの人々が、桶川で働きたいと思えるまち、また、長く住み続けたいと思えるようなまちの未来の姿を表しています。

2 (1) 10年後の在りたい姿（状態）

本市の商工業の10年後の在りたい姿（状態）として、次の6つをイメージしています。

近い将来に向かって、これらを実現させていくことが、商工振興計画の基本目標として掲げている「多様な産業が連携・振興できる にぎわいと活力ある 働きたい・住み続けたいと思えるまち」を達成させることにつながります。

そして、国内外で着実に進められている持続可能な循環型経済・社会等の実現に寄与し、人々の心豊かな暮らしにもつながります。

< 10年後の在りたい姿（状態）の6つをイメージ >

- 若者・女性・高齢者・障害者・外国人など、
多様な人材が活躍できている
- 新規事業者が参入しやすい相談体制と
事業継続しやすいフォロー体制が作られている
- デジタル化によって人口減少社会に対応できる経営体制を構築している
- 多様な事業者が繋がりをもち、新たなビジネスを創出できている
- 中心市街地に人が集い、にぎわいのある状態
- 事業者・市民・市役所・商工会が連携している

(2) 10年後の在りたい姿(状態)のキーワード

10年後の在りたい姿(状態)の6つには、キーワードとして「多様性」「連携」「デジタル化」「新規参入」「事業継続」「にぎわい創出」が挙げられます。

これらをしっかりと押さえながら、個々の取組を進めることにより、商工振興計画の基本目標の達成につなげます。

< 10年後の在りたい姿(状態)のキーワード >

